

園のおたより



第 5 号

令和 5 年 8 月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

家族ごっこ

園長 関 由起子

暑い暑い日、子どもたちは園庭での外遊びが出来ず、お部屋で様々な遊びをします。1組のAくん「なにしているの?」と聞いたところ、「家族ごっこ」だそうで、お母さんが3人、ペットが1匹、誰でもない人が1人(Aくん)がいました。今風の多様性に富んだ家族です。ペットは自由にお部屋を飛び回り、Aくんは私にお母さんたちの様子を解説し、そしてお母さんたちはエプロンを付けて賢明に料理をしていました。切ったり、炒めたり、煮たり、配膳したりと忙しそうです。おうちでもお母さんがきっと素敵な料理を作っているんでしょうね。

娘の保育園時代、先生から「家族ごっこ(当時はおままごと)では、子どもたちはお母さんと同じように振る舞うので、お家の中が見えますよ」と言われていました。娘はいったいどんなおままごとをしているのか心配していました。そしてその心配は的中しました。テーブルにうさぎ、きりん、くま、いぬのぬいぐるみを座らせて、コップを一つずつ配り、そして「かんぱい!」とコップをぶつけたのです。私達夫婦は毎日晚酌をしており、「いただきます」ではなく「乾杯」が食事開始の合図だったんです。きっと保育士さんは私たちが呑兵衛であることに気づいているんだと恥ずかしく、そして反省しました。その後夫婦で話し合い、食事の前には手を合わせて無事な一日を感謝すること、「いただきます」を言ってから食べ始めることをルールとしました。そして娘が成人した今でも、どんなに直前に喧嘩をしても、食事の前には家族みんなで手を合わせて「いただきます」と言っております。

子どもたちはきっと至るところで親の振る舞いを見ているんだと思います。私自身も小学生の時、夏休みの絵日記に母がお鍋から直接ラーメンを食べたことを書いて叱られた記憶が蘇ってきました(保護者参観で発表してしまいました)。子どもに見せたくない行いは常日頃行わない、見せたい行いは習慣化することが大切なのですが、なかなか有言実行とはいかないものです。長い夏休み、保護者の皆様も少しだけ普段の習慣を振り返ると良いかもしれません。

